

## 腸管出血性大腸菌感染症について

新潟県福祉保健部健康対策課

### 1 腸管出血性大腸菌感染症とは

大腸菌のうちベロ毒素を産生する菌（腸管出血性大腸菌）が原因で起こります。例年夏期に多く発生します。

- 種類 代表的な血清型はO157、O26、O111 などです。
- 感染経路 菌に汚染された食物や便を介して感染します。
- 潜伏期間 3～5日
- 症状 下痢、腹痛、水様便、血便、発熱、溶血性尿毒症症候群（HUS）
  - ・症状は無症状から重篤なものまで様々です。発熱は軽度で、多くは37℃台です。
  - ・HUSは、腎機能や神経学的障害などの後遺症や、死亡することもある重篤な疾患です。

### 2 予防方法

- 腸管出血性大腸菌は75℃で1分以上加熱すると死滅します。
- 食品を十分加熱し、調理後の食品は食べきる等の注意が必要です。
- 生肉又は加熱不十分な食肉を食べることは避けましょう。
- 肉を焼くときのトングや取り箸は専用にし、口に入れないようにしましょう。
- タオルやふきんは、乾いて清潔なものを使いましょう。
- トイレの後や、調理・食事の前は、石けんと流水で手洗いを励行しましょう。
- 保育施設においては、オムツ交換時の手洗い、園児に対する排便後・食事前の手洗い指導を徹底してください。
- 下痢症状のあるときはプール（特に子供用簡易プール）などの使用は控えましょう。
- 動物との接触後は十分な手洗いを行いましょう。

### 3 学校保健安全法における扱い

第三種感染症に定められており、病状により学校医その他の医師が感染のおそれがないと認めるまで出席停止となります。

### 4 届出状況

	報告数	O血清型内訳
平成29年（総数）	82	O157：59件、O26：8件 O111：3件、O91：1件 O145：1件、O63：1件 O126：1件、O103：3件 O121：2件、O86：1件 O血清型不明：2件
平成30年（第1週～32週）	19	O157：16件、O26：1件 O103：2件